

立命館大学アート・リサーチセンター

文部科学省 共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」
2016年度 共同研究成果報告書〔研究費配分型〕

2016年 月 日 提出

1. 研究課題名	
海外日本美術品・工芸品のデジタル・アーカイブとコレクション研究 (英文標記: Digital Archiving the Japanese arts and research the Japanese art collection in Europe and U.S.A.)	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
John Carpenter	メトロポリタン美術館・日本部門主任学芸員
3. 研究分担者 (合計: 名)	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
Bincsik Monika	メトロポリタン美術館 日本部門学芸員
Janice Katz	シカゴ美術館・アソシエート学芸員
Hans Thomsen	チューリッヒ大学東洋美術部・教授
Markéta Hánová	プラハ国立美術館・アジア館・主任学芸員
Ellis Tinios	リーズ大学・名誉講師
Timothy Clark	大英博物館・アジア部・日本担当主任学芸員
Rosina Buckland	スコットランド国立博物館・東アジア担当上級学芸員
Annegret Bergmann	ベルリン自由大学美術史学部・准教授
Melanie Trede	ハイデルベルグ大学・東アジア美術学部・教授
Ewa Machotoka	ライデン大学・地域研究研究学部
Donatella Filla	キョッソーネ東洋美術館・館長
Bonaventura Ruperti	ヴェネチア大学・日本学科・教授
Silvia Vesco	ヴェネチア大学・アジア・北アフリカ学科・教授

Sonia Favi	ヴェネチア大学・日本学科・助手
Toshie Marra	カリフォルニア大学バークレー校・東アジア図書館・日本担当司書
李増先(り ぞうせん)	立命館大学・衣笠総合研究機構・専門研究員
山口欧志(やまぐちひろし)	立命館大学・衣笠総合研究機構・専門研究員
松葉涼子(まつばりようこ)	立命館大学・衣笠総合研究機構・専門研究員
佐藤弘隆(さとうひろたか)	立命館大学・文学研究科・博士後期課程 D2
川内有子(かわうちゆうこ)	立命館大学・文学研究科・博士後期課程 D3
常木佳奈(つねきかな)	立命館大学・文学研究科・博士後期課程 D1(予定)
鈴木桂子(すずきけいこ)	立命館大学・衣笠総合研究機構・教授
赤間 亮(あかまりょう)	立命館大学・文学部・教授

4. 研究課題の概要(300 字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点が分かるように明記してください)
<p>欧米各国に散在する日本美術・工芸品をアート・リサーチセンターのデジタル・アーカイブ技術を活用してデジタル化し、各所蔵機関が共同で利用できる大規模な日本美術・工芸品データベースを構築する。このデータベースを共同利用しながら、とくに、関連するドキュメントや古典籍をもデジタル化することにより、海外に輸出された美術・工芸品がどのように理解されてきたか、コレクションそのものの総体がどのような性格を持つのか、それらが日本文化理解をどのように深めて来たかを考察するデジタル環境基盤を構築するのを最終目的とする。データベース化により、分野の異なる美術品・工芸品を結びつけ、また、未整理・新収の文化資源についても、継続的にデジタル・アーカイブすることに務める。可能な限り一般公開に結びつけ、「ポータルデータベース」として、この分野の研究環境の高度化を実現する。</p>
5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)
<p>2016 年度は、引続き研究メンバーの協力のもと、次の機関・個人の日本文化財コレクションのデジタル・アーカイブとデータベース化を実施した(詳細は事項)。</p> <p>今年度特に重点化したのは、古典籍の重点的デジタル化と DB 搭載で、国文学研究資料館の「歴史的典籍 NW 事業」が本格的に立ち上がり、連携と役割分担を行う必要があるため、本プロジェクトでは、海外と個人の古典籍に重点を置き、美術館・博物館に特に所蔵されることの多い、絵入本・絵本・画譜などのアーカイブ化加速を加速することにした。これによって、工芸・美術など視覚文化研究プロジェクトへの貢献が齎されると考える。</p> <p>また、古典籍・浮世絵 DB の英語インターフェイスの修正を行ない、より自然なインターフェイスにした。さらに、ローマ字検索・英語検索も可能なように DB 構造を改良した。</p> <p>また、ポータルデータベースの型展開が可能となったため、古典籍については、日本の所蔵機関のデータセットの取り込みやリンク情報の取り込を行い、格段にデータベースの収録数を増やした。これにより、参考となる資料が大量に吸収された。浮世絵については、UKIYO-E.ORG との連携を強化し、博物館を含めたダブルトライアングル構想を推進する。</p> <p>さらに、今年度から、3D アーカイブも開始し、大英博物館の所蔵品が WEB 公開された。</p>

6. 研究業績

(3) 研究発表等

- ・立命館 ARC の海外デジタルアーカイブ、その現状報告と持続可能なデジタルアーカイブへの挑戦 単
独 2016年6月 2016年度第1回 関西地区部会(研究会) 赤間 亮
- ・専門分野別研究資源ポータルデータベースと相互リンクによるユーザビリティ 単独 2016年6月
2016年度アート・ドキュメンテーション学会年次大会 赤間亮
- ・ARC メソッドによる文化資源アーカイブ 単独 2016年10月 国際ワークショップ「学術資料と
しての『型紙』—資料の共有化と活用に向けて」 赤間 亮
- ・大阪府立中之島図書館 芝居番付閲覧システム 共同 2016年12月 WEB (立命館大学
ARC) 赤間 亮、倉橋正恵
- ・描かれた頼光伝説: 異界展デジタル展示の紹介も兼ねて 単独 2017年2月 Text &
Image in Pre-modern Japan: From Analogue to Digital Humanities 赤間 亮
- ・日本における日本演劇資料のデジタル・アーカイブと立命館 ARC の展開 単独 2017年2月 ア
ジア圏文化資源研究開拓プロジェクト国際ワークショップ 東アジア演劇研究におけるデジタル・ヒューマニテ
ィーズの可能性 赤間 亮

(7) 科学研究費助成事業

在欧州絵入版本・浮世絵のカタログング, 基盤研究(B), 2012年4月～, 2017年3月, 代表

(8) 競争的資金等(科研費を除く)